

化学教育 徒然草



技術は人なり

SAKAI Kiyotaka

酒井清孝

東京電機大学工学部応用化学科
早稲田大学名誉教授
日本人工臓器学会名誉会長



巻頭言

この言葉は東京電機大学の校是である。立派な研究者・技術者になるには、実践的な知識・技術と幅広い教養を併せ持つとともに、人としても立派でなければならない、という意味合いである。学校を卒業してから社会で活躍する人物とは？ 非常に優れた成績と能力を持ち、さらに研究面でも素晴らしい成果を挙げたにもかかわらず、社会に出て大成しなかった若者を数多く見てきた。逆に学校でさほど秀でていなかったのに、社会に出てから活躍する若者も見てきた。何がそうさせたのかに長年疑問を持っていた。社会に出てから活躍するのはどのような人物であろうか？

学校で学ぶ学力・知識は社会に出る前の必要条件であるが、これだけでは十分とは言えない。では他に何が必要なのか？ それは社会での適応力であり、人間力ではないだろうか？ つまり知力・知恵である。学力・知識は試験などで計れるもので、点数で評価できる。しかし計りようのないのが知力・知恵である。それは、学生時代から社会に飛び込んで周りの人とのコミュニケーションで養われる。学内のクラブ活動もよいであろう。

ソニー株式会社創業者の井深 大氏が述べておられるように、工業技術では他愛ない夢を実現することから革新が生まれる。例えば「鳥を見たら、空を飛べるようになりたい！ 魚を見たら、水中を泳げるようになりたい！……」というような素朴な夢を見る。それを実現するために、今までできなかったことを可能にする。今まで分からなかったことを明らかにする。今までなかったものを新しく作る。このように夢を見てそれを実現することが、工業技術の発展には不可欠である。夢を見るのに知識はいらない。子供でも夢を見ることはできる。しかし、夢を実現するには知識が必要である。そこで学問を学ぶことが必要なのだ。

研究とはファイティングスポーツの一つである。これまでの不可能を可能にするには、夢を見ることと多くの失敗を重ねることだけではできない。それ以外に何が必要であろうか？ それは発明・発見へと突き動かされるモチベーションであり、挑戦する勇気であり、失敗しても挫けない逞しさであり、さらに挑戦し続ける持続力である。だとすると、誰にでもチャンスはある。若者よ、挑戦してみよう！！

[連絡先]

kisakai@waseda.jp